

第2回稲毛区地域福祉計画推進協議会議事要旨

【1】開催

日 時：平成23年9月24日（土）午前10時～午後12時10分

場 所：稲毛保健福祉センター 3階 大会議室

出席者：委員定数 31人

出席委員数 23人 手話通訳者 2人

事務局 10人 オブザーバー 2人

【2】次第

1 開会

2 委員長挨拶

3 議題（1）区地域福祉計画の広報について

①推進協だよりについて

②リーフレットについて

（2）区地域福祉計画の取組状況の把握・計画の推進について

①自助・共助による区地域福祉計画推進の取組について

②計画の推進体制・今後の推進協議会の進め方について

（3）その他

・東日本大震災に伴う千葉市社会福祉協議会の支援活動について

4 閉会

【3】議事の要旨及び発言要旨

議題（1）区地域福祉計画の広報について

①推進協だよりについて

千葉市社会福祉協議会稲毛区事務所より、広報委員会開催及び施設取材等の報告、並びに配付資料「稲毛区地域福祉計画推進協議会だより No.11（案）」（以下：推進協だより）について説明。

主な発言内容は以下のとおり。

（委員長）広報委員会において時間を割いて検討いただいた結果が、この推進協だより（案）だと思ふ。感想や気づいた点など、いかがでしょうか。また、発行部数、配布方法について、事務局よりお聞かせください。

（事務局）発行部数は概ね4,000部、配布方法については保健福祉センターや公民館、市民センター等での配架、各町内自治会にも回覧分を配布予定です。

- (委員) 町内には高齢者が多く、細かな字による活字の列記はまず読まない。また、閲覧板に添付の書類も非常に多く、活字慣れした目には伝わりづらい。今後はインパクトがあり、簡単明瞭で容易に理解できるような記事掲載について検討願いたい。
- (委員) 広報委員会において十分に話合った結果が今回の記事である。また、広報の意味合いとして活字として報告すること、記録として残しておくことも必要がある。それらのことも委員会で話合ってきた。
- (委員) 名簿掲載の必要はあるか。
- (委員) どの地区から、どこの所属の方が参加しているかということも知っていただきたいことから、掲載となっている。
- (委員長) 今号の推進協だよりの全4ページ(案)について、皆さん了承ということでしょうか。
- (委員一同) 異議なし。
- (委員長) ありがとうございます。今後の発行について、どのようになっているか。
- (事務局) 別途2回程度の広報委員会を開催し、3月の発行を予定しています。

②リーフレットについて

地域福祉課より、第2期千葉市地域福祉計画(以下:市計画)、第2期稲毛区地域福祉計画(以下:区計画)の概要版となるそれぞれのリーフレットについて説明。

主な発言内容は以下のとおり。

- (委員長) 市計画、区計画のことを知ってもらうために作成、配布となった旨説明があったが、質問、意見などいかがでしょうか。
- (委員) 市計画、区計画が市のホームページにアップされているとのことだが、次の時でよいのでホームページアドレスを掲載いただきたい。
- (事務局) 貴重なご意見、ありがとうございました。
- (委員長) 今後の増刷の予定はありますか。また、その際にアドレス掲載は可能か。
- (事務局) 現在、次年度の予算編成中であり、増刷分予算を考えています。アドレス掲載も可能です。

議題(2) 区地域福祉計画の取組状況の把握・計画の推進について

①自助・共助による区地域福祉計画推進の取組について

委員長より、区計画の取組状況及び稲毛区地域福祉推進協議会(以下:推進協)の進め方について、事前に意見や提案をいただいているが、それらまとめた配布資料をもとに発表いただき、情報交換をしながら進めていきたい旨、説明があった。

主な発言は以下のとおり。

(委員) 私たちの地域では、高齢化が進み、夫婦二人暮らしや一人暮らしの方々が増え、今困っていることがゴミ捨て問題である。二点目は、後期高齢者制度で医療費が上がらないよう介護予防に気を配り、区をあげての体操を実施していく制度を位置づけたいと考えており、市、県、国として考えていかなければならないと思っている。ゴミ捨ての件は、2年前にちょっとボランティアという制度を立ち上げ、地域で困っている人を地域で支えていこう、向こう三軒両隣で支えていこう、と地区部会で実行してきたが、年々高齢化が進み、ゴミ捨てが大きな苦勞となっている。朝8時までに出すルールがあり、前日の夜、あるいは朝8時以降は出せないため、高齢者は大変苦勞している。また、夫婦共に病弱で、一人は入院、一人は在宅、ゴミを出せないで困っているケースもある。ちょっとボランティアの制度を活用しながらお手伝いしているが、経年によりボランティアもまた高齢化し、長い活動ともなれば苦情も出てくる。地区部会でどうすればよいか問題になっている。私たちの地区は道が狭く、ゴミ収集車が入って来れない。また、ゴミステーションの設置場所が少なく、捨てに行く距離が遠くなってしまっている。これらの問題を団体で取り組んでいかなければならないと思っているが、団体だけではどうにもならないので市の協力をお願いしたく、提案させていただいた。次は後期高齢者制度。県の後期高齢者の連絡協議会委員を務めているが、75歳以上の方が年を重ねるほどに病気になっている。同時に介護保険の金額も上がるということになる。それを聞き、地区部会で介護予防をすることによって医療費が抑えられるのではないかと、ここにこ体操という制度を立ち上げ、毎月1回30人くらいの高齢者が集まって体操を実施し、3年になる。県の補助金で必要な用具等をそろえて行っている。先日参加者に、病院に行っているか聞いたところ、病院へ行かなくなったという。であればずっと体操をしていこうとなった。あんしんケアセンターも最近では体操等を行っている。区をあげて体操プログラムを立ち上げていくのがよいのではないかと、できることから始めていくとよいのではと思っている。市川市などでは市全体で立ち上げていることも聞いている。

(委員長) ゴミ捨ての件は課題かと思う。解決となくなるとも良い方法などがあれば意見をあげてほしい。

(委員) これからは高齢化が加速するため、ゴミ捨て問題の件は最もなことだと思う。私たちの地区は、ゴミステーションを全地区平面図で見直し、ゴミステーション増設について市へお願いに行ったら増やしてくださった。地区内が抜け道になっていたりして危ないため、また大きい通りを渡らずにゴミが捨てられるようになった。最終的に市としてやっていただきたいのは、東京のように家の門のところにゴミを置き、それを回収するといったこと、予算もかかるだろうが一考願いたい。ボランティアが支えることも必要なこと。ゴミ捨て問題は、今後どの地区で

も大きなテーマとなってくるだろう。市、区、一体となって考えていただきたい。

(委員) 2年間にわたり、千葉市のゴミ問題の懇談会に委員として出席していた。そこで提案したのは、例えば5～10人のグループでカラスネット、ちりとり、収納ボックス、それらを持ち回り、排他的ゴミステーションを築き上げるということである。目的は外からゴミを持ち込ませないこと。このような提案が委員の皆さんの地区からも提案として出てくることを期待している。千葉市としては、そのような動きをしているということをお知らせしておきます。

(委員) 社会は高齢化が加速し、一人暮らしの高齢者が増加しているということを考えていただきたいと思います。

(委員長) ゴミ捨て問題の話でもこれだけの意見、事例等が出る。この場で問題解決とはならないかもしれないが、この問題が皆さんにとって重要であるならば、また別の機会に検討を続けるといった進め方を、今後考えたいと思っています。

(委員) 高齢者の健康問題について、社会体育振興会稲丘地区は、総合型地域スポーツクラブを立ち上げているが、地区部会との共催で毎週1回グラウンドゴルフを行っており、平均年齢は70歳くらい、最高年齢者は93歳、そのようなコミュニティをつくっている。地区には社会体育振興会という仕組みもあるのだから、うまく協力してこの問題を解決していけばいいのではと思っている。

(委員長) 今の情報交換のように、皆さんに関心があり、情報共有できるものは時間を割きたいと思う。時間内で有意義に進めていきたいと思います。

(委員) 私たちの地区部会は、協力団体として町内自治会へ参加し、防災に取り組んでいるが、1～2年前から「無事デス」タオルを町内自治会の防災会が配付した。非常時に見えるところに置いて逃げる、それを見た班長はこの家は無事と把握でき、タオルの出ていない家を重点的に回ることができる。タオルとともに説明書や笛もついており、一所帯350円程度で配付した。地区の防災訓練時には、実際にタオルをかけていただくなど効果は上がっている。また、各町内自治会の防災代表者、公民館職員、民生委員、学識経験者、地区部会等が集う防災会議を立ち上げた。内容は(黒砂)公民館を中心とした防災体制の確立、防災拠点の設置運営マニュアル作り等である。さらに災害時用所帯構成調査票なるアンケートを実施した。プライバシーのこともあり、多くのことは聞き取れないため、所帯主名、年齢、家には介護している老人がいるなど、必要最小限のことを記入いただき、現在集計中である。さらにマニュアル作りだが、阪神淡路大震災時のマニュアルを引用しつつ地域にあったものを作ろうと、現在作業中である。

(委員長) 今の取り組み報告に対し、質問、感想などいかがでしょうか。

(委員) 大変素晴らしい取り組みだと思う。市の要援護者計画の支えあいカードがあると思うが、そのカードと皆さんが先進的に取り組んでいる安心カードが存在し、この先どうなっていくのか疑問を感じている。

(委員) 支えあいカードは一緒の町内自治会の中で別に進めている。どういうふうボランティアの方を集め、どのように実施できるかなど、これからアンケートを取り、進めていこうという取り組みをしており、地区の防災対策事業と市の要援護者支援事業と2つになってしまっているが、どちらも進めている。要援護者の名簿は民生委員に配られているが公表できないものなので、町内自治会としてアンケートを取らせていただき、進めていくという体制をとっている。

(委員) 要援護者支援事業の進行はとても煩雑である。私は民生委員でもあるが、民生委員には要援護者の名簿が来るもプライバシーの問題があり、取扱いが難しいため、私たちの地区は全員を要援護者とした。元気な方が要援護者になるかもしれないことを考えからである。それを総会に諮り、賛成を得られれば民生委員は情報を隠すこともない。また、どこの病院にかかっている、どんな薬を飲んでいる等を記入したキットを作り、冷蔵庫に入れておく。そのことを玄関へ張り出しておけばレスキュー隊、警察等が来てもすぐに把握できる。さらには、その情報をすべて公表可、一部の情報なら公表可、という2つの回覧を流し、情報を得た。防災委員はその2つの情報を共有している。命の重さは誰も一緒である。

(委員長) 今のような取り組みの話はとても参考になる。こういった取り組みが進んでいくところもあるというのは注目すべきと思う。今後の推進協で、実際に地区でリーダーとして活躍している方の話を聞かせていただくことも考えてみたい。

(委員) 本会で議論されている地域福祉とは一体どんなものであるか、皆さんに改めて考えていただきたいと思っている。地域福祉を推進するには行政との関わりが大きくなるが、直面するのは縦割り行政である。幸いなことに、今年度より事務局には地域振興課の方が入っている。行政も横の連携を今後大いに進めていただけると、地域福祉も質が上がるのではないかと思う。先の取り組み発表の地区(＝緑・黒砂地区部会)は、公民館が中心になって防災体制を整えているとのこと、素晴らしいと思っている。私たちの団体では、今年度より「公民館を核としたコミュニティづくり」事業に取り組んだところである。しかしながら、地区の(緑が丘)公民館は、推進協があることすら知らない。推進協から千葉市教育委員会を通し、公民館へ連絡があってもいいのではないかと感じているので、これからぜひ、行政の横の連携を強めていっていただきたいという要望をしておきます。

(委員長) 今の発表のキーワードに「公民館」が一つあった。今年度開始の「公民館を核としたコミュニティづくり」事業が具体的に進んで来たら、推進協で発表などしていただければと思っています。

(委員) 公民館の役割というのは本当に難しい立場なので、私たちが無理に(黒砂)公民館に協力をお願いして防災体制作りをしているが、公民館を拠点としての体制作りを進めていくことは、今後の課題だと思う。

(委員) 公民館が難しい立場という話があった。皆さんご存知のとおり、公民館の職員

も頻繁に交代がある。その年その年の職員の理解が得られないと、公民館を中心とした活動がなかなか難しいということをつけ加えておきます。

(委員) 公民館の話が出たが、私たちの地区で3月11日の大震災時、家の中が割れたガラスだらけで寝られないという方々が二家族いた。その方々は、公民館の和室で三泊四日寝泊まりさせていただいた。帰宅困難者も6人ほど泊まった。公民館、町内自治会、地区部会のボランティアの支えのもと、公民館には大変ご協力いただいた。また、市の方から毛布の支援もしていただき、その毛布ももらってよいこととなり、町内自治会で保管している。公民館は大変協力的であることを報告させていただきました。

(委員長) 公民館は地域の社会資源として存在していることは間違いないと思う。他の公民館でも同様の動きが出てくれば注目していきたい。

(委員) 地域の中で、色々な課題が出ている。皆さんはどのように解決されているのか、この推進協で検討でき、少しでも解決につながればと思っている。先ほど話があったが、民生委員のもとへ来る要援護者名簿は町内自治会には公表できないため、町内自治会の班長さんに自分の班を回っていただき、支援の欲しい方、一人暮らしの方など、町内自治会の役員として全員を調べていただいている。支援が必要などの申し出があれば、自主的活動の中での申し出なので、町内自治会で支援ができるだろうということで進めている。また、コーディネーター組織の件だが、町内自治会ごと、公民館ごと、学校区ごとなど、どのような形で作っていくのか、今後コーディネーターの役割はとても重要になってくると思う。皆さんと検討させていただきたく、意見として出しました。また、安心カードを作っているが、これは地域で2、3回人が倒れ、怪我をしたなどの例があり、救急車を要請し助けられたが、どこに住んでいるかが分からないなど騒ぎになったため、全員で持っている。次に、防災訓練について、参加される方は毎年同じ方、その年に役員になった方だけである。大きな災害にならないと関心が薄いようであり、町内自治会で問題となっている。最後にいきいきサロンについて、認知症サポーター養成講座等を開催しているが、こちらも出てくる方は同じ、若い方に出てきてほしいが、こちらから声をかけない限り自主的には出てきてくれない。悩みの種となっている。皆さんへ出てきていただくために、個々に回って声かけをしている。自ら出てくる方は様々なことに関心があるが、そうでない方に関心を持っていただくにはどうすればよいか、皆さんの意見をお聞きしたい。

(委員長) 今の報告に対して、感想などいかがでしょうか。

(委員) よい解決方法がある。防災訓練を実施するも、決まった人しか参加しないという話があったが、私たちの地区も過去に同じ状況があった。これを解決すべく訓練を夜に実施したところ、参加者がガラッと変わった。最も関心を持っていただきたいのは家のお父さんであり、若い方たちである。その方々に関心を持って

ただくには、夜に訓練を実施しなければ、という考えからである。日中の訓練も必要だが、一つの解決方法としてご助言させていただきました。

(委員) 安心カードや身分証などは、どこにつけておくのが一番よろしいか。カバンの中、お財布の中、ポケットなら洗濯してしまう心配もある。倒れている方でも同意がなければ探すことはできない。誰もが同じようなところに入れておくことが情報としてあれば、慌てず探さなくて済む。カードや身分証を持つすべての皆さんが同じところにつけている、しまっているとすればいいのでは、という思いから意見させていただいた。

(委員) 知的障害をお持ちのお子さんなどをはじめ、自分の身につけておくのが一番かと思う。バッグなどに入れておいても置いてきてしまえば離れてしまう。

(委員) 知的障害をお持ちの方は見えるところに名札を、といて常に名前が公表し続けることは人権侵害にあたるのでは、という方もいらっしゃる。一市民として、皆さんと同じ立場で考えていただきたい。どこにつけておくといった話も、知的障害を持っているからではなく、一市民としてどうあるべきかという観点で考えていけたらいいと思う。

(委員長) 障害をお持ちの方、高齢者等考え方は皆同じかと思う。この場でカードや身分証はここに付けようとの答えは出ないが、今後統一の方向となるよう進めていければよいかと思う。また、コーディネート組織の話も、稲毛区では重点項目として取り組む事項となっている。

(委員) 当事業所は、地域にお住いの知的障害をお持ちの方々に対する考え方や、どのように協力させていただければよいのかといったことについて、皆さんの知識やアドバイスを受けたいと思っている。

地域で活動している方、組織同士との連携、協力について、日頃より地域の民生委員、町内自治会長、行政機関の方々と連携を取り、地域にお住いの方々をサポートさせていただいている。こちらから声がかかっていない町内自治会もあるかもしれないが、今後お声かけさせていただき、その方々にとって、より良い、住みやすい地域にしていければと思っている。逆にお困りの方からもお声かけいただき、一緒になって考えていければと思っている。

ボランティアの人材育成、活動の中核となれる人材の発掘について、当事業所は障害をお持ちの方との触れ合いの場として開放し、小中学校の学習の時間としての職場体験学習や、社会福祉士、介護福祉士、ホームヘルパー等の資格取得を目指す方々の実習の場としても受け入れを行っている。

次にコーディネート組織の連携について、当事業所は相談支援事業も行っている。これは、当事業所だけで解決していくのではなく、例えば医療機関や学校、町内自治会など、相談者を取り巻く環境において相談が必要となる機関の方々にお集まりいただく場を設け、その会議に参加している。

最後に安心カードの作成と活用について、当事業所は知的障害をお持ちの方だけでなく、障害者手帳をお持ちでない方々もご利用いただいているが、その方々の中には、障害を持っていることを知られたくないと思っているご本人や家族がいる。例えば、その方々は無理に町内自治会に入っていくのではなく、当事業所が間に入ってつないでいくべきと思っているが、課題ともなっている。一方で、ご家族によっては障害を持っていることを知ってほしいと思う方々もいらっしゃる。このような状況のもと、当事業所は日々の活動に取り組んでいる。

(委員長) 皆さんが知らなかった報告もあったかと思うが、利用させていただける部分は利用していく、連携できる部分は連携していくことが、「ふるる」とつながることになるのだと思う。質問などいかがでしょうか。

(委員) ボランティアのきっかけを求めている人に対する受け入れをしているとのことだが、「ふるる」さんのご近所の人でないとできないか。私の近所の方から、何かお手伝いできることはないかと相談されているが、区内の遠方の方の受け入れはしていただけるか。

(委員) 大丈夫です。ぜひお越してください。当事業所も職員だけの利用者対応より、ボランティアの方々に関わっていただくことで、より幅が広がっていくと思っています。また、当事業所はラウンジ&ギャラリーも開設している。多彩な趣味をお持ちの方へギャラリーの無料貸し出しも行っている。ぜひお気軽に足を運び、ご利用いただきたい。当事業所とどう関わればよいのか分からない、といった方にもお声かけいただければと思っている。

(委員長) 「ふるる」さんの情報は、推進協だより(案)の4ページにも掲載している。気軽にと行っていただけると行きやすくなる。身近にある施設情報を知り、この先の皆さんの活動の中でつながっていけばよいと思う。

(委員長) 残り30分となったが、ここまでの「議題(2)①自助・共助による区地域福祉計画推進の取組について」の報告、課題などの情報交換の時間であった。今出た様々な話を踏まえ、「議題(2)②計画の推進体制、今後の推進協議会の進め方について」に入りたいと思う。予め皆さんに提出いただいた意見、提案を基に進めていきたい。最初の提案者は、本日欠席のため代読させていただきます。「地域福祉計画を推進するにあたり、中心的役割を果たす組織を立ち上げるのは難しいと思う。地域差はあると思うが、現在、各地区に社協地区部会があると思うので、各々活動している人や組織を地区部会に組み入れていくとよいと思う。」とのこと。ニュアンスは提案者に聞いてみないと分からないが、推進協そのものということではなく、活動している人や組織がなるべく地区部会に入っていくことが良いのではないかと、ということだと思っている。提案者に代わり、ご報告させていただきました。続いての提案者、発言願います。

- (委員) 1回が約2時間、それが年3、4回の開催の推進協だが、この限られた時間の中での情報交換はかなり厳しい。重点項目を進めていくために作業部会を設け、情報をもっと集め、意見交換していく場があってもよいのではないかと思います。
- (委員長) 昨年は新しい区計画をつくるための作業部会があったが、例えば分科会などもそうだが、推進協とは別の場があってもよいのではとのこと。いかがでしょうか。
- (委員) 年3、4回の推進協だけで進めるというのは、すごく難しいと昨年作業部会へ参加し感じていた。本年度から新しい区計画が始まることもあるので、それぞれの重点項目をもう少し細かな視点で見られるような部署が作られたら、そこで意見を出し合い、次の推進協で提案するということもできるのではないかと思います。
- (委員) 実働部隊が実際に動く仕組みは、例えば地区部会という単位になるのではないかと思います。先ほど委員長代読の提案にもあったが、新しい組織を作るということは考えてはならないし、地区部会でどうあるべきだということを進めていくべきだと思う。重点項目を進めていく作業部会というのは、推進協の在り方を話し合う場であり、実際に何をしていくべきかは地区部会を中心に考えていかなければならない、そういう雰囲気を作らなければいけないのではないかと思います。組織を作るのもいいのだが、それを実行する地区部会がどのように動くかといった具体的な話し合いがあってもいいのではないかと思います。
- (委員長) 今の意見は、これから触れる皆さんから出た意見、提案とすべて関連している感じがする。この場で分科会の設置賛否を採るわけではないが、全4回の推進協で時間が足りないと思っている方がいれば、設けていくこともあるということ、また他の区で実際に分科会という自発的な場を設けている区もあるということをお知らせしておきます。続けて次の方の意見、提案へ進みます。
- (委員) 皆さんが各地区で様々な活動をしていると聞くが、具体的にどのようにやっているかが分からないので、実践事例を発表していただきたい。それを聞いて全地区が必要となるものは広げていくといいのではないかと思います。
- (委員長) 今日の推進協の前半でも取り組み状況についての報告があったが、今の話は、それがより明確に位置付けたらどうかということだと思う。例えば皆さんのどなたかに次回の推進協で発表してください、と事前をお願いしておき、発表していただくといったことではないかと思います。次へ進みます。
- (委員) 私が常々思っていることで、また先ほども意見として出ていたが、地区部会を中心にやっていかなければならないということがある。この推進協で皆さんからの有意義な意見が取り交わされているが、それを誰がどこでまとめるのかということ、かなり難しい問題になると思う。本来、地域の福祉というのは地区部会が中心となってやるべきではないかというのが私の持論。地区部会に入って、推進協を発表の場として様々な情報を発信していく、それを持ち帰って自分の地区部会で報告したり、取り入れて実践していく、これが本来のやり方ではないかと思う。

推進協は31名の方が参加しているが、要となるのはここへ出席の11人の地区部会代表者ではないかと思う。また、本来ならば推進協参加者全員に地区部会へ入ってもらいたい。そこで出た話を推進協で意見すれば、より効果が上がると思う。推進協で通らなかった意見は持ち帰り、再度地区部会で議論することも必要なこと。各地区には相当な団体があるはずで、その方々が地域の福祉推進に関わっていくのが本来の姿と思うが、地区部会の組織にそのような方々が入っているのが疑問としてある。私の地区部会を言えば、ほとんどが民生委員だが、民生委員はまた別の活動がある。福祉の団体は、地域の団体が集まり、話し合っ進めていくのが本来だと思う。たとえ立派な基本方針ができて、本当に伝わっているのだろうかという疑問に思う。ここで様々な意見は出ているが、大事なことはそれが地区部会へ持ち帰られ、実行されているかだと思う。実態を知ってもらうためにも、すべての方に地区部会へ入っていただき、色々な意見を出し合い進めること、推進協も地区部会を中心として機能し、プラットフォームとして情報発信をしていくのが本来の推進協の在り方なのではないかと考えている。

(委員長) 実体験に基づいたお話だったと思う。次の意見、提案とも関連があるようだ。

(委員) 今の意見とも関連すると思うが、区計画の実体化の担い手は現場の人達だと思っている。先ほどあった新たな組織を立ち上げるのは難しいと思うし、むしろ今ある組織活動をどう充実させていくかが大変重要なのではないかと思う。現場を担っている人たちや組織は、地区部会や町内自治会、皆さんもまた日頃の活動実体を持ちながら参加しているのだと思う。そのような方々が現場で活動を担いながら、この区計画を実践していくことになるのだと思う。それに際し、この区計画そのものがどれだけ現場に伝わっているのかということも常々思っている。推進協に出るようになってからまだ日が浅く、新たに認識をさせられているところだが、町内自治会を担っている人たち、社協活動を担っている人たち、現場に行けば行くほどこの区計画が知られていないのが実態ではないかと感じている。知ってもらうためにも区計画の冊子を増刷し、現場への配布をした方が良いかと思うが、ホームページへアクセスし、自分で印刷をとることだった。それで本当にいいのかということ。お金はかかるが、現場の方々へこの区計画が知れ渡る努力は必要なことであるし、現場の人たちは区計画を知ることによって、区計画を一つの指針としながら現在の活動をより充実させ、お互いが情報共有し連携を取っていく。そういう方向性が見い出せればこの区計画はとても生きてくるのではないか。ダイジェスト版のリーフレットが配布となることが事務局よりあったが、ダイジェスト版では中身が伝わりにくい。冊子を増刷し、現場へ届ける努力をされた方が良いのではないかと思う。

(委員長) 続けて最後の提案者へ進めます。

(委員) 今の発言にも関連するが、私たちは区計画の冊子を一生懸命作った。大変素晴

らしい内容だと思うが、一年かけて作ると内容が多岐に渡っており、どれを重点的にというのが難しい。稲毛区では今年度はこれをやったよ、と言えるものがひとつはあってもいいのではないかと思い、提案させていただいた。11の地区部会があるが、このすべてが一つになって何かをやるのは、また難しい側面があるなど思いながらもこのような提案をさせていただいた。先ほどの推進協参加者全員が地区部会へ参加してはいかがかとの意見は、大変参考になるので個人的に考えてみたいと思うが、一方では推進協で議論されたことを地区部会長の集まりや、各地区部会でこんな議論がされているんだということを報告していただき、さらに議論を深め、実行に移すことも有意義と考えているが、いかがでしょうか。

(委員長) すべての意見、提案が発表されたが、ほぼすべてが関連してくると思う。どなたでも結構だが、今日ここまで発言のない方を中心に発言願いたい。推進協の在り方、分科会についてなど何でも構わない。いかがでしょうか。

(委員) 地区部会は常に現実問題に直面している。そんな時、千葉市社会福祉協議会(以下: 市社協)の目標は何だ、どういうことを実施しようとしているのか、といったことを地区部会の現場で教えることがしばしばある。ここで話し合っていることを地区に持ち帰って伝えることは重要なことだと考えている。

(委員) 色々な問題点が多岐に渡った意見交換だったと思っている。その中でも、地域の福祉は地区部会が中心となり進めていくこと、全く同感である。現場での実践や体験を推進協で発表し、それを地区部会へ持ち帰り、広げることがいいのではないかと感じている。行政は縦割りであるため、似たような内容の調査が何度も来るが、その都度現場では大変な苦勞をして情報収集をしている。現場は行政から来る業務が錯綜して、パニックになるぐらいの状況である。話は変わるが、私たちがやっているいきいきサロンはとても活発で充実しているが、このサロン活動を今年度の当地区の重点施策にしている。さらに未実施のところを実施していけるよう進めていくところであり、行政からの支援には感謝している。ひとつひとつのサロン活動は小さな核ではあるが、心の絆がそこから生まれれば、大震災や災害時に役立つのではないかと感じている。

(委員) 地区部会長となり二年目でまだよく分からない中、皆さんの話をお聞かせいただいたが、サロン活動ひとつをとっても、地区によりレベルがあるのかなと思う。区計画の中のことは、大なり小なり皆さんが実践していることだと思う。自信を持って楽しく活動をしていけば人材も集まってくるし、色々なことができると思う。私の地区は32の町内自治会からなる地区部会だが、例えばどこの町内自治会が防災組織を立ち上げ、訓練をしているかなど、具体的な面が全然把握できていない。このため、現在アンケートを実施しており、集計したものを見守り活動など具体的な面で役立てていけたらと思っている。また、私たちの地区には介護施設が7、8か所あるのが特徴で、旧来の居住者とマンション居住者とが混在、

田舎の人と都会の人が行き交うといったユニークな地域である。住民の特性を活かしながら一人一人を大切にし、コミュニケーションを取りながら地域の福祉を作っていきたいと思っている。推進協に参加することがとても楽しく、勉強になる。ここで出た話を一つでも二つでも持ち帰り、地区部会の活力とし、実践していきたい。

(委員) これまで出た意見、提案は地区部会がより活発になればということだと思うが、地区部会の活性化については、市社協がもっともっと頑張っ進めていくのがよろしいのではないかと感じた。推進協としては、地域福祉を担う数多くの団体からの意見を反映させることが本来だと思う。ただ、それを推進していく大きな要素として地区部会代表者の意見が必要だということはよく分かる。地区部会に偏ることなく、それ以外の方々の大きな力、地域の各団体の意見を救い上げていただきたいということを率直に感じた。

(委員) 稲毛区全体の、また千葉市レベルの話だと思って聞いている。皆さんの話からは色々学ぶところがあるので、私たちの団体としても県レベルでの話として出したいと思う。また、このような資料も大切にし、参考にさせていただきたいと思っている。

(委員) 大変参考になる話だったと思うが、推進協設置要綱の第2条に「推進協議会は、地域福祉計画に関する情報の『プラットフォーム』として、情報交換を通じて計画に基づく取り組みの成果を共有しながら・・・」とある。結局、情報交換の場としてだけの推進協となってしまっている。以前に、もう少し踏み込んだ議論ができる場にならないかと聞いたところ、推進協に権限を持たせることはできないという意見もあったと思う。稲毛区を今後より良くしていくと考えた場合、推進協には各団体の代表者が集まっているのだから、例えば問題や課題がある地区に推進協の委員を派遣し、話を聞き、一緒になって活動してみる。情報周知が行き届いていないといった話もあったが、地域で活動している方、地区部会の方、町内自治会の方等にお越しいただき傍聴していただく、そういった相互連携の強化が必要であると思った。また、新しい区計画が始まったが、先の大震災の発生により、全国的に地域福祉計画の欠点等が報道を通し、露見されたようなところもあったと思う。千葉市にも微量ながら放射能が降り注いでいることもあるようで、高齢者や障害者、子供たちが出歩くのも今後影響が出てくる可能性もある。原発事故による放射能問題、いつ来るかわからない大震災など、環境面の問題を詰めて関係各部署とも連携していくことも必要であり、それらを踏まえて協議していく必要があるのではないと思う。

(委員長) 予定の時間が超過となってしまった。このあと事務局より、次回の推進協の大まかな日程報告があるが、事前に分科会的なものをやるならば当然調整をしなければならない。ついては、正副委員長と事務局で打ち合わせを行い、今後の進め

方についての案内も含め、連絡できればと思っている。「議題（3）東日本大震災に伴う市社協の支援活動について」（以下：議題（3））が残ってしまっているが、次回以降で対応したいと思う。次回の概ねの日程について、事務局よりお願いします。

（事務局）第3回推進協の開催日程について、この場で調整させていただきたい。本年度の第1回推進協において、第3回推進協は11月下旬か12月上旬ということでご了承いただいているが、11月26日か12月3日、いずれかの土曜日に開催したいと考えているが、いかがでしょうか。

（委員長）多数決もし難いので、いずれかの日程に地区行事が入っていると、都合が悪いのでどちらかの日にしてほしいなどお聞かせ願えればと思う。

（委員）これまでの推進協は、一貫して土曜日の午前中だったと記憶している。土日は皆さんご多忙の向きも多いかと思う。平日開催も一つの考えだと思うので、今後事務局でも考えていただけたらよいのではと思う。

（委員長）一つの考えとしての提案だったが、今後事務局において案を出してお知らせしたい。要望があればこの場、あるいは事務局まで近いうちにお知らせください。

（委員）最後で恐縮だが、松井委員にお伺いしたい。3月11日の大震災時に何が一番お困りになったかお聞かせ願いたい。

（委員）その日は私自身が北海道にいたこともあり、当時の千葉の状況は分からないが、生活をする中では問題はなかったと聞いている。情報ということで一番困ったのは、原発事故があるまでは報道に手話通訳がついていたが、震災のニュースでは大臣の顔ばかりで手話通訳が途中で途切れていたため、正確な情報が把握できず、不安だったということがあった。

（委員長）今の話は、また時間を取ってしっかりとお聞きしたい。次回以降でお聞きする場合は正式にお願いしたいと思います。

（委員）議事進行についてお伺いしたい。配付された次第があるので、それに合わせ、また時間のことも考え、会議を進めてほしいと思う。最後に質問が出た災害時のことだが、基本方針の施策の方向性として、災害時などの支援体制の強化という大きなテーマがあり、また先ほど事務局からも次回の推進協で議題（3）について報告があるとの発言があったと思う。委員長からあったように、次回のテーマとしてしっかりと話し合うのもよいかと思うので提案しておく。

（委員長）進行に不手際があり、申し訳ございませんでした。事務局へ戻します。

次回の区推進協議会は11月下旬か12月上旬に開催を予定しています。

事務局が閉会を宣し、第2回稲毛区福祉計画推進協議会は散会。